



歴史大好きミナちゃん

生粋の米子っ子ジローくん

同じ中学校に通う同級生、**戸山ミナちゃん**と**平山ジローくん**。米子の歴史や文化（カルチャー）にくわしい**かるちゃん**といっしょに米子城の魅力や謎に迫ります。今回は、本丸を中心に城の構造について学びます。

ミナちゃん：この前「米子城跡ガイドウォーク」というイベントに参加して初めて城山の頂上に登って見たんだけど、ほんと、想像以上の絶景ね。

ジローくん：米子の町並みが手に取るように見えるからね。頂上の周りにはぐるりと石垣が巡っているけど、昔はどんなふうになっていたのかな？

かるちゃん：頂上付近の郭（石垣などで囲まれた区域）が、城の中核部になる**本丸**と呼ばれるところだよ。絵図や古文書を見ると、本丸にはいろいろな建築物があったのがわかるんだ。その中心にあったのが、高さ約20mの大天守と、高さ約16mの四重櫓（副天守）だったんだけど、他にも二重櫓が5棟、多門櫓が5棟、門が6か所があったとされているんだよ。

ミナちゃん：本丸にはたくさんの建物があったのね。そういえば、天守台のふもとにある番所、天守へと通じる階段の途中にある鉄門、中海の方へ張り出している遠見櫓などの跡が標柱で表示してあったわ。頂上には天守の基礎として使われた礎石も残っているわね。

かるちゃん：城の基本設計である**縄張**を見ていくと、米子城はこの本丸を中心として湊山のふもとに二の丸や三の丸を巡らし、中海につなぐ堀で陸地と分断した、小島のような「後ろ堅固」の城だったというのがわかるね。天守からは海を行き交う船も見えるので、防衛拠点としては最高の場所でもあったし、町中からもよく見えるってことは、城下に対して権威を示すことにもなったんだよ。

ジローくん：なるほど。後ろが海に囲まれていたら簡単には攻め込まれないね。どこにどんな城を建てるかというのは、とても重要なことなんだね。

かるちゃん：そうだね。日本の中世前期の古いお城は**山城**とって、自然地形を利用して山の中に砦を築くやり方が主流だったんだ。一方、大阪城や名古屋城のように平地に築かれた城は**平城**と呼び、米子城や松江城みたいに山の上に本丸を置いて、その周囲の平地も城内に取り込んだ城は**平山城**というんだよ。平山城は山から切り出した石で高い石垣が容易に築け、山上の本丸からは周囲の見通しがきいて防衛力が高いという長所があるので、戦国時代（中世後期）の大名は、この平山城を理想のタイプと考えたんだね。江戸時代になって世の中が安定してくると、お城は戦いのためというより権威の象徴という意味合いが強くなってくるから、不便な山城より民衆へのアピールもしやすい平城が中心になるんだ。米子城は戦国時代の特色も残した堅牢な平山城だったと言えるね。

ミナちゃん・ジローくん：へえー、時代によってもお城の作り方が変わるんだね。お城って奥が深いなあ。

次回は、二の丸、三の丸から城の構造について学びます。おたのしみに！

（米子市教育委員会 文化課）



城山山頂からみた米子の町並み
（米子城跡ガイドウォーク）



伯耆国米子城絵図
（天明2年（1782）作成）



米子の歴史・文化（カルチャー）の
伝道師 かるちゃん